

エコアクション21



環境経営レポート (第12版)

対象期間

2022 年 8 月 1 日 ～ 2023 年 7 月 31 日

国道218号（蘇陽橋）道路補修補助（橋梁）塗装その1工事（施工中）
「写真中央部より 左側クイックデッキライト 右側クイックデッキ」



先行床施工式フロア型システム吊り足場

『クイックデッキライト』を主体とし、セキュリティールーム設置の為に
チェーン吊りが不可能となる張り出し部に『クイックデッキ』を併用した
ハイブリッド吊り足場を採用

2023 年 8 月 31 日 作成



橋梁塗装 株式会社

【目次】

- 1) 組織の概要 P-1~2
- 2) 環境経営方針 P-3
- 3) 実績体制・認証登録の範囲 P-4
- 4) 環境経営目標 P-5~8
- 5) 環境経営活動計画の実施状況の評価 P-9
- 6) 環境経営目標の実績と今後の活動 P-10~11
- 7) 環境関連法規への違反、訴訟等の有無 P-12
- 8) 代表者による全体の評価と見直し P-13

1. 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者名

事業者名 橋梁塗装 株式会社
代表者名 代表取締役 会長 原田 文博

(2) 所在地

本社 : 熊本県熊本市東区若葉1丁目19-13
TEL: 096-277-6111 FAX: 096-277-6112
営業所 : 福岡県福岡市中央区大名2丁目4-38
TEL: 092-732-1028 FAX: 092-732-1029

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理者名 原田 保臣 (代表取締役 社長)
事務局担当者 工事部 部長
TEL: 096-277-6111 FAX: 096-277-6112

(4) 事業内容

許可番号 国土交通大臣 許可(特-4)第22575号
建設業の種類 塗装工事業 とび・土工工事業
塗装・補修部門 ・鋼橋塗装、水門塗装、各種鋼構造物塗装
鋼構造物塗装施工管理、鋼構造物補修
インバイロワン工法、ツインブラスト工法
常温金属溶射(パズル工法) 橋梁補修工事
錆転換型防食塗装システム(サビバリヤー)
電磁誘導加熱式塗膜剥離(RPR工法)
特販部門 ・・・・紫外線硬化型FRPシート販売施工
仮設部門 ・・・・橋梁補修用吊足場、枠組足場、単管足場
仮設足場図作成および強度計算書作成
調査業務部門 ・分析塗膜採取業務 鋼構造物塗膜劣化調査業務
付着塩分量測定業務(電導度法)

(5) 事業の規模

項目	単位	2020年度	2021年度	2022年度
売上高	百万円	504	244	248
資本金	万円	1000	2000	2000
社員数	人	15	16	16

2007年10月 2日 設立

(6) 会計年度

期首: 8月 期末: 7月

(7) 認証登録範囲

全社、全事業活動

(8) 保有資格

1 級土木施工管理技士

2 級土木施工管理技士（鋼構造物）

1 級技能士（鋼橋塗装作業）

1 級建築施工管理技士

1 級技能士（建築塗装作業）

インバロワン工法技術者

鍍転換型防食塗装システム施工技能士（エポガードシステム）

PAZL 溶射工法（技能士・管理技士）

特別管理産業廃棄物管理責任者

危険物取扱責任者（乙種第4類）

作業主任者

型枠支保工の組立作業主任者

足場の組立等作業主任者

建築物等の鉄骨の組立等作業主任者

木造建築物の組立等作業主任者

特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者

鉛作業主任者

有機溶剤作業主任者

石綿作業主任者

技能講習

小型移動式クレーン運転技能講習

ガス溶接技能講習

車両系建設機械技能講習

高所作業車運転技能講習

玉掛技能講習

特別教育

自由研削といしを取替等

アーク溶接

小型車両系建設機械（整地・運搬・積込み用及び掘削用）3 t 未満

酸素欠乏危険作業の業務

ロープ高所作業に係る業務

職長・安全衛生責任者教育

環境経営方針

〔基本理念〕

橋梁塗装株式会社は、橋梁塗装工事が中心で、地球規模での環境の悪化を深刻に受け止め子供たちの将来のためにも、人類共通の環境保全に全社員一丸となり環境負荷をすこしでも減少し、環境に配慮した施工並びに活動に努めます。

〔行動方針〕

当社は、橋梁塗装工事を中心に特に環境への影響を認識し、事業活動を継続、維持するために下記項目について、環境関連法令を厳守しつつ環境経営の継続的改善を図ります。

1. 当社の主力事業である塗装工事業を通じて環境に与える影響を低減するとともに、循環型社会の実現に努めます。
 - ① 省エネルギー活動として、電気使用量の削減及び現場作業時の発電機を蓄電池と兼用し燃料の削減に努めます。
 - ② 省資源活動として、資源使用量の削減及びリサイクルを積極的に実施します。
 - ③ 廃棄物の削減とゴミの分別及びリサイクルに努めます。
 - ④ 5S活動（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の推進に努めます。
 - ⑤ 化学物質（シンナー）の削減に努めるとともに管理表を作成し管理します。
 - ⑥ グリーン製品の優先購入に努めます。
 - ⑦ 環境配慮工法のマニュアル化及び販売促進に努め（顧客）に提案していきます。
 - ⑧ 水使用量の削減に努めます。
2. 事業活動に関する環境法規類及びその他の要求事項を順守します。
3. 環境経営方針は、全社員に周知するとともに環境教育を実施し組織全体での環境経営に関する意識の向上を図ります。

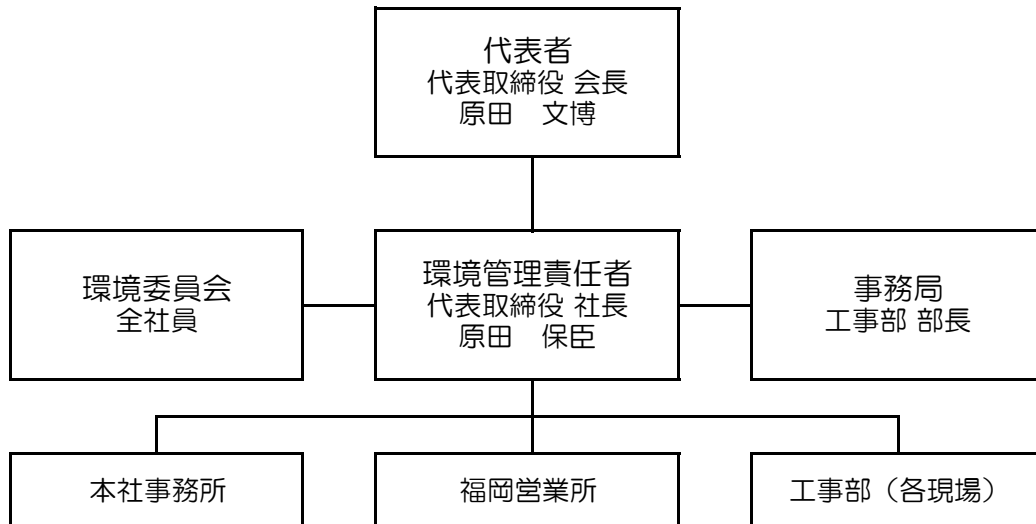
2013年 2月 1日 制定
2023年 8月 1日 改訂

橋梁塗装 株式会社

代表取締役 会長 原田 文博

3. 実施体制

1) 環境組織



* 認証・登録の対象範囲・・・橋梁塗装株式会社 全組織

2) 責任と権限

代表者	①環境経営の最高責任者
	②環境経営方針の制定、環境経営目標及び環境経営活動の承認
	③環境経営システムの評価、全般的な見直し
環境管理責任者	①環境経営システム全体の構築・運営の責任者
	②環境経営目標、環境経営活動及び環境経営活動計画の確認、指示
	③各部門の環境経営活動の指示及びフォロー
	④教育と訓練の総括
	⑤環境経営システム実績等の評価及び代表者への報告
事務局	①環境経営管理責任者の代行及び環境経営活動の全社的な推進
	②環境負荷の取りまとめ
	③環境文書発行・管理の実務
	④その他、EA21事務全般
環境委員会 社員 (各部門)	①環境経営方針、目標の理解
	②環境経営活動の理解と実施
	③環境法規制の遵守
	④緊急事態の予防策、対応策の実施
	⑤内部コミュニケーションの実施
	⑥改善の為に提案

4. 環境経営目標

1) 基準年度の実績

項目		2019年度の環境負荷
二酸化炭素排出量	電気使用量	3,860kWh (1,339kg-CO ₂)
	ガソリン使用量	10,166L (23,585kg-CO ₂)
	全体CO ₂	26,843kg-CO ₂
廃棄物搬出量	産業廃棄物	廃プラ： 0.380 t 金属くず： 0.070 t 再資源物： 0.070 t
	一般廃棄物	総排出量 0.655 t
水使用量		29,000 m ³
シンナー類使用量		208 kg

注記)：本社、営業所の合算の環境負荷

(営業所分は、間借り事務所で検出出来ない為にガソリン使用量のみとし、その他は削減努力とする。)

2) 環境経営目標

項目		環境目標 (3カ年計画)		
		2020年度 (第10版)	2021年度 (第11版)	2022年度 (第12版)
二酸化炭素排出量	電気使用量	2019年度比1%削減 3,821kWh (1,326kg-CO ₂) 現場電力の蓄電池併用の推進	2019年度比2%削減 3,783kWh (1,313kg-CO ₂) 現場電力の蓄電池併用の推進	2019年度比3%削減 3,744kWh (1,299kg-CO ₂) 現場電力の蓄電池併用の推進
	ガソリン使用量	2019年度比1%削減 10,064L (23,349kg-CO ₂)	2019年度比2%削減 9,963L (23,113kg-CO ₂)	2019年度比3%削減 9,861L (22,877kg-CO ₂)
	全体CO ₂	26,575kg-CO ₂	26,306kg-CO ₂	26,038kg-CO ₂
廃棄物排出 (一般廃棄物・産業廃棄物)		分別を積極的に推進しごみの削減に努めます。	分別を積極的に推進しごみの削減に努めます。	分別を積極的に推進しごみの削減に努めます。
水使用量 (節水の推進)		2019年度比1%削減 28,710 m ³	2019年度比2%削減 28,420 m ³	2019年度比3%削減 28,130 m ³
化学物質の適切な管理		適切な管理状況確認 現場管理	適切な管理状況確認 現場管理	適切な管理状況確認 現場管理
顧客への環境配慮		イパ・イワノ販売促進 ウルトラパッチ施工実施の推進 ツインラストの施工実施の推進 及び粉塵回収装置の試験施工 錆転換型防食塗装システム (サビバリヤー) の推進	イパ・イワノ販売促進 ウルトラパッチ施工実施の推進 ツインラスト機をベースとした 粉塵低減対策装置の試験施工 錆転換型防食塗装システム (サビバリヤー) の推進	イパ・イワノ販売促進 ウルトラパッチ施工実施の推進 ツインラスト機をベースとした 粉塵低減対策装置の試験施工 錆転換型防食塗装システム (サビバリヤー) の推進
工事関係		当社が現場で守るべき環境活動を実施	当社が現場で守るべき環境活動を実施	当社が現場で守るべき環境活動を実施

*基準年度CO₂排出係数・九州電力2018年度(0.347kg-CO₂/kWh) 調整後排出係数

*灯油・軽油は、使用量が不規則な為除外し、削減努力と致します。

*全体CO₂排出量には、灯油、軽油を含む。

環境経営目標に関する説明及び補足

- ① 電気使用量については、無駄な使用を控えて使用量の削減に努めます。
また、現場使用電力は、ソーラーパネルと蓄電池との併用も実践していきます。
省エネ活動は、別途、環境経営活動計画を立てて実践していきます。
- ② ガソリン使用量については、エコ運転の実施及び日々の点検を推進していきます。
現場で使用する発電機は、蓄電池との併用でガソリン使用量の削減に努めます。
- ③ 廃棄物関係について
 - 1、 塗料関係は、発注者指定の為、削減するのは厳しいが、その他の項目で
施工方法などを検討し廃棄物の削減につなげます。（創意工夫）
 - 2、 事務所及び現場でのごみの分別を徹底します。
 - 3、 ごみの削減も推進していきます。
- ④ 水使用量については、節水に努め、基準年度3%削減に努めます。
- ⑤ グリーン購入については、主に文具を遂行していきます。
文具購入の際は、エコ商品の優先購入を推進します。
＊グリーン購入法(文具類)の手引きを参照
- ⑥ 化学物質の適切な管理については、シンナー類の適切な管理、使用量の検討を実施し、
シンナーが余らないように管理し、残った場合は、下請業者など必要とする方に
有効利用してもらうか、塗料販売店に引き取ってもらい、在庫を残さない。
- ⑦ 顧客への環境啓発については、下記項目の通りできる限り環境負荷の少ない製品の
販売を 促進していきます。
 - ① インバイロワンの販売及び施工実績を促進。
 - ② ウルトラパッチの施工実施の推進。
 - ③ ツインプラストをベースとした粉塵低減対策装置の試験及び施工実施の推進。
 - ④ 鋳転換型防食塗装システム（サビバリヤー）の推進

4-2. 次年度以降環境経営目標

1) 基準年度の実績

項目		2022年度の環境負荷
二酸化炭素排出量	電気使用量	3,613kWh (1,637kg-CO ₂)
	ガソリン使用量	13,830L (32,084kg-CO ₂)
	全体CO ₂	46,785kg-CO ₂
廃棄物搬出量	産業廃棄物	一般： 4.565 t 特管： 0 t 再資源物： 0.430 t
	一般廃棄物	総排出量 0.571 t
水使用量		34.00 m ³
シンナー類使用量		224 kg

注記)：本社、営業所の合算の環境負荷

(営業所分は、間借り事務所で検測出来ない為にガソリン使用量のみとし、その他は削減努力とする。)

2) 環境経営目標

項目		環境目標 (3ヵ年計画)		
		2023年度 (第13版)	2024年度 (第14版)	2025年度 (第15版)
二酸化炭素排出量	電気使用量	2022年度比1%削減 3,577kWh (1,621kg-CO ₂) 現場電力の蓄電池併用の推進	2022年度比2%削減 3,541kWh (1,604kg-CO ₂) 現場電力の蓄電池併用の推進	2022年度比3%削減 3,505kWh (1,588kg-CO ₂) 現場電力の蓄電池併用の推進
	ガソリン使用量	2022年度比1%削減 13,692L (31,763kg-CO ₂)	2022年度比2%削減 13,553L (31,442kg-CO ₂)	2022年度比3%削減 13,415L (31,121kg-CO ₂)
	全体CO ₂	46,317kg-CO ₂	45,849kg-CO ₂	45,381kg-CO ₂
廃棄物排出 (一般廃棄物 ・産業廃棄物)		分別を積極的に推進しごみの削減に努めます。	分別を積極的に推進しごみの削減に努めます。	分別を積極的に推進しごみの削減に努めます。
水使用量 (節水の推進)		2022年度比1%削減 33.66 m ³	2022年度比2%削減 33.32 m ³	2022年度比3%削減 32.98 m ³
化学物質の適切な管理		適切な管理状況確認 現場管理	適切な管理状況確認 現場管理	適切な管理状況確認 現場管理
顧客への環境配慮		イパ・ドワ販売促進 ウルパ ッチ施工実施の推進 ツインプラストの施工実施の推進 及び粉塵回収装置の試験施工 鍍転換型防食塗装システム (サビバリヤー) の推進	イパ・ドワ販売促進 ウルパ ッチ施工実施の推進 ツインプラスト機をベースとした 粉塵低減対策装置の試験施工 鍍転換型防食塗装システム (サビバリヤー) の推進	イパ・ドワ販売促進 ウルパ ッチ施工実施の推進 ツインプラスト機をベースとした 粉塵低減対策装置の試験施工 鍍転換型防食塗装システム (サビバリヤー) の推進
工事関係		当社が現場で守るべき環境活動を実施	当社が現場で守るべき環境活動を実施	当社が現場で守るべき環境活動を実施

*基準年度CO₂排出係数・九州電力2022年度(0.453kg-CO₂/kWh)

(調整後排出係数)

*灯油・軽油は、使用量が不規則な為除外し、削減努力と致します。

*全体CO₂排出量には、灯油、軽油を含む。

環境経営目標に関する説明及び補足

- ① 電気使用量については、無駄な使用を控えて使用量の削減に努めます。
また、現場使用電力は、ソーラーパネルと蓄電池との併用も実践していきます。
省エネ活動は、別途、環境経営活動計画を立てて実践していきます。
- ② ガソリン使用量については、エコ運転の実施及び日々の点検を推進していきます。
現場で使用する発電機は、蓄電池との併用でガソリン使用量の削減に努めます。
- ③ 廃棄物関係について
 - 1、 塗料関係は、発注者指定の為、削減するのは厳しいが、その他の項目で
施工方法などを検討し廃棄物の削減につなげます。（創意工夫）
 - 2、 事務所及び現場でのごみの分別を徹底します。
 - 3、 ごみの削減も推進していきます。
- ④ 水使用量については、節水に努め、基準年度1%削減に努めます。
- ⑤ グリーン購入については、主に文具を遂行していきます。
文具購入の際は、エコ商品の優先購入を推進します。
＊グリーン購入法(文具類)の手引きを参照
- ⑥ 化学物質の適切な管理については、シンナー類の適切な管理、使用量の検討を実施し、
シンナーが余らないように管理し、残った場合は、下請業者など必要とする方に
有効利用してもらうか、塗料販売店に引き取ってもらい、在庫を残さない。
- ⑦ 顧客への環境啓発については、下記項目の通りできる限り環境負荷の少ない製品の
販売を 促進していきます。
 - ① インバイロワンの販売及び施工実績を促進。
 - ② ウルトラパッチの施工実施の推進。
 - ③ ツインブラストをベースとした粉塵低減対策装置の試験及び施工実施の推進。
 - ④ 鋳転換型防食塗装システム（サビバリヤー）の推進

5. 環境経営計画の実施状況の評価

※評価基準：○：できた △：改善の余地あり ×：実施できなかった －：対象外

項 目	推進責任者	具体的な活動	事務所	営業所	工事
電気 省エネ	本社：原田保臣 営業所：責任者 工事部：各責任者	使用しない照明の消灯	○	○	○
		使用時以外のトイレ、会議室の消灯	○	○	－
		冷暖房設定温度の厳守 冷房28℃暖房20℃	△	○	－
		OA機器の退社時の電源オフ	○	○	－
		空調機フィルターの定期的清掃（6月、12月）	○	○	－
ガソリン 使用量	本社：原田保臣 営業所：責任者 工事部：各責任者	アイドリングストップの推進	○	○	○
		経済運転の推進（急発進、急停止の禁止）	○	○	○
		車両点検の実施	○	○	○
		不要な荷物を積まない	○	○	△
産業 廃棄物	工事部：各責任者	産業廃棄物の分別の徹底	－	－	○
		リサイクル、再資源化の推進	－	－	－
		産業廃棄物置場の適正な管理	－	－	○
水使用	本社：原田保臣 営業所：責任者	節水の推進	△	○	－
		節水ステッカーによる目で見える周知	○	○	－
グリーン 購入	本社：原田保臣 工事部：各責任者	Eco商品表示商品の購入推進	○	△	△
		詰め替え可能な商品の購入推進	○	○	△
		環境対応型製品の購入（仕入）推進	○	○	○
化学物質 管理	工事部：各責任者	環境配慮製品（インバイロワン）の使用推進	－	－	○
		SDS整備、内容の把握	－	－	○
		環境法規の遵守	○	○	○
顧客への 環境配慮	本社：原田保臣 営業所：責任者	環境配慮製品（インバイロワン）の販売推進	○	－	－
		自治体への環境配慮製品の提案	○	○	○
		ツインプラストの施工の実施	－	－	○
工事関係	工事部：各責任者	工事前の事前説明の実施	－	－	○
		顧客、地域とのコミュニケーション確保 （苦情、要望の適正処置）	－	－	○
		適切な工事手順の徹底	－	－	○
		自治体への環境配慮工事の提案	－	－	○

6. 環境経営目標の実績と今後の活動

(運用期間：2022年8月～2023年7月)

項目	基準年度 (2019)	2022年度目標値	2022年度実績	達成度
全体CO2排出量	(26,843 kg-CO2)	(26,038 kg-CO2)	(46,402 kg-CO2)	56.1 %
電気使用量	3,860 kWh	3,744 kWh	3,613 kWh	103.6 %
(CO2排出量)	(1,339 kg-CO2)	(1,299 kg-CO2)	(1,254 kg-CO2)	103.6 %
(評価と今後の取組内容) 電気使用量は、こまめな節電とエアコンのフィルター清掃などで一定の成果があったと考えられる。 現場では、蓄電池とソーラーパネルの活用を維持している。 今後も、創意工夫による電力の削減に努めます。				
ガソリン使用量	3,860 L	9,861 L	13,830 L	71.3 %
(CO2排出量)	(23,585 kg-CO2)	(22,877 kg-CO2)	(32,084 kg-CO2)	71.3 %
(評価と今後の取組内容) 今期も、コロナ感染防止の為、車の乗り合わせを中止した期間もあり、目標には至らなかったが、今期も現場では、蓄電池とソーラーパネル活用で、発電機用のガソリンの削減ができています。 また、現場状況により不規則な一面もあるので、出来るところから削減を目指す。				
一般廃棄物	—	廃棄物を分別する。	分別ができた。 総排出量571kg	—
産業廃棄物	—	廃棄物を分別する。	分別ができた。 総排出量4,565kg	—
(評価と今後の取組内容) 一般廃棄物は 可燃ごみ、紙、埋立ごみ、廃プラ、資源ごみ、で、分別は実施。 現場での産業廃棄物は、分別を行い、適正に処分した。 また下請工事分の産業廃棄物は、分別を適正に行い、元請業者に引き渡した。 環境目標はほぼ達成できた。今後もごみの削減に推進致します。				
水使用量	29.00m ³	28.13m ³	34.00m ³	67.7%
(評価と今後の取組内容) 基準年度よりも事務所作業等が増している為、目標量を超えてはいるが、前期よりは、削減出来ている、今後も出来る限り、こまめに止めたり、溜めて使うなどを徹底し必要以上の水を使わないように節水に努めます。				

化学物質の適切な管理	—	適切な管理状況確認 現場管理	適切な管理状況確認 現場管理	—
（評価と今後の取組内容） 元請工事及び、下請けの現場であっても、現場での、適切な管理を行いました。				
顧客への環境配慮	インバ [®] 107 [®] 販売促進 ウルトラ [®] ッチ施工実施の推進 ツイン [®] ラストの施工 実施の 推進及び粉塵回収装置の 試験施工	インバ [®] 107 [®] 販売促進 ウルトラ [®] ッチ施工実施の推進 ツイン [®] ラストの施工実施の 推進及び粉塵回収装置の 試験施工 錆転換型防食塗装システ ム（サビバリヤー）の推 進	インバ [®] 107 [®] 販売促進 ウルトラ [®] ッチ施工実施の推進 ツイン [®] ラストの施工実施の 推進及び粉塵低減対策装 置の試験施工 錆転換型防食塗装システ ム（サビバリヤー）の推 進	—
（評価と今後の取組内容） インバイロワン及びウルトラパッチは使用状況も安定してきているので 今後も、更なる技術の向上に努めます。 ツインプラスの粉塵低減対策装置の試験施工の実施と改善を更に進めます。 今後も顧客へ環境に配慮した工法等を提案し推進していきたいと思います。				
工事関係	—	当社が現場で守るべき環境活 動を実施	当社が現場で守るべき環 境活動を実施できた	—
（評価と今後の取組内容） 施工請業者としてエコアクション21環境経営活動を重視し今後も、地球環境の保全に努めます。				

7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

遵守評価は環境法規制登録表で実施しています。

主な法令

遵守評価日：2024年4月19日

遵守評価者：橋本美津夫

	関係法令	チェック項目	チェック方法	評価
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法)	1 産業廃棄物マニフェスト	マニフェスト管理状況確認	○
		2 廃棄物委託契約書	契約書の内容確認	○
		3 保管場所表示、保管基準遵守	現場確認	○
		4 管理票の交付状況定期報告	年間報告提出の確認	○
		5 収集運搬車への表示およびマニフェスト携帯	現場確認	○
2	消防法	1 危険物の適切な保管	適切な保管所の設置	○
		2 指定数量の貯蔵	指定数量の1/5の貯蔵量	○
4	水質汚濁防止法	1 水質汚濁事故発生時の核関連機関への報告と適切な対応	事故時の手順の確認 関連機関の連絡網の確認	○
5	化管法	1 特定化学物質の適切な保管 環境の保全上の支障を未然に防止	SDSの確認	○
6	労働安全衛生法	1 作業主任者の選任 リスクアセスメントの実施 保護具の適正使用 安全な作業環境の確保 特殊健康診断の実施	工事中の監視 定期社内パトロールの実施 チェックリストによる記録	○
7	フロン排出抑制法	1 業務用エアコン室外機 定期点検（1回/3ヵ月）	点検表	○
		2 廃棄時の適正処置	フロン回収書	○
8	家電リサイクル法	1 リサイクル料支払い	リサイクル兼	○
		2 廃棄時の適正処置	領収書	○
9	自動車リサイクル法	1 リサイクル料支払い	リサイクル兼	○
		2 廃棄時の適正処置	領収書	○

遵守評価の結果、環境関連法規への違反はありません。

なお、訴訟や関係当局からの指摘や行政指導は、過去3年間ありません。

8. 代表者による全体評価と見直し

エコアクション21の登録より、環境経営レポートも今期で12版の発行となり、社員一同、日常での環境経営への取組が維持できていると感じられている。

環境経営目標の達成も現場状況による波やコロナ感染防止の影響により目標を超えた項目はあるものの、可能な範囲では出来ていると考えられる。

環境経営活動の目標への取り組みには、社員並びに協力会社も含めた組織全体の協力が必要となる為、今後も組織一丸となり、環境問題への意識の向上をはかり更なる質の向上に努めます。

顧客への配慮は、コミュニケーション及び環境配慮工法を積極的に提案し普及に努めます。

また、有害物質を含む塗膜の剥ぎ取り作業において有効な、インバイロワン工法（ベンジルアルコールフリー）・粉塵の低減対策装置を組み合わせたツインブラストなどを、現場状況に応じて活用或いは更に改善し、環境保全につなげたいと思います。

見直し結果

項 目	見直し結果
環境経営方針	年度末まで継続し見直しの必要性を検討します。
環境経営 目標、活動	社員全員に配布し年度末まで継続いたします。
実施体制	年度末まで継続し見直しの必要性を検討します。
その他の仕組み、取組	社内会議などで、報告し年度末まで継続していきます。



橋梁塗装 株式会社

2023年8月31日

代表取締役 会長
原田 文博